

スウェーデンの文化を中心に
おいしい香りや楽しい雰囲気、人々の温もり、
旅に役立つさまざまな情報を
お届けします。



A photograph of a small, round, textured glass candle holder. The holder has a mottled, almost crystalline appearance with various shades of brown and tan. Inside the holder, a small, lit candle is visible, casting a warm, yellowish glow. The background is dark and out of focus, with some light reflecting off the surface behind the holder. The overall image has a vintage, slightly grainy quality.

【ガラスのキャンドルホルダー】

北欧で見かけるキャンドルホルダーはガラスで出来ているものが多いように感じます。スウェーデンやフィンランドの産業の一つがガラスというものもその理由かも知れませんが、そもそもガラスを使う暮らしには、厳しい自然の中で生き抜くための生活の知恵が存在します。日中でもどんよりした曇り空の日々が続く北欧の冬、窓辺にガラスを置くことで外の光を反射させ、少しでも多くの光を室内に取り入れようとする工夫が見られます。キャンドルホルダーにもその発想があらわれており、炎の輝きがより拡散されるようガラス素材のものがよく使われます。そのためスウェーデンの人たちはガラスに温かいイメージを持つことが多く、日本の風鈴や冷たい飲み物を入れるガラスのように涼しげな印象はありません。これからの季節、秋の夜長に、電気の明かりを消してキャンドルの光を楽しんでみてはいかがでしょうか。毎日の食卓にも、お友達を招待する週末にも、そして家族団楽の時間にも、そこにはきっと新たな、温かくて素敵な会話が生まれるはずです。

A family of five is gathered around a dark wooden table in a cozy, rustic interior. The room is warmly lit by several lit candles on the table and a candelabra near a large window. The window looks out onto a dark night. On the wall, there is a framed picture of a person in a snowy landscape and a large antler decoration. The family consists of a man, a woman, and three children, all engaged in conversation and eating. The atmosphere is intimate and warm.

日本とスウェーデンでは照明に対する考え方が違います。日本では高い位置からの明るい光を好みますが、スウェーデンでは一般的に、必要なところに必要な分だけの明かりを使います。スポットライトや間接照明の他、日々の生活に欠かすことが出来ないのはキャンドルです。さまざまな形や色のものをシチュエーションや季節に合わせて使い分け、食事の際はもちろん、読書をする時なども灯し、薄暗い室内の雰囲気盛り上げます。外が明るい時間でも火を灯すことがあるほどです。また真夏でも夜は冷え込むことがあるスウェーデンでは、部屋を暖めるために用いることも。キャンドルはスポットライト、間接照明の補佐的な役割を持ち、室内をより快適な場所にするための道具であり、炎の揺らぎによって人の心に安らぎや温もりをもたらしてくれる存在なのです。



北欧ジャーナリスト＆コーディネーター。
北欧企業のビジネスサポート、PR等の他、
スウェーデンハウス・オーナー様専用サイ
ト【God Dag】内でもコラム「北欧ダイア
リー」を連載中。